

神経薬理学分野

(1) 研究室構成および紹介

教授 白尾 智明 客員教授 関野 祐子
助教 山崎 博幸、花村 健次、小金澤 紀子
大学院生 3名

(2) 現在の研究テーマ：当分野では、神経シナプスの発達・機能が、遺伝情報によって制御されている分子機構と、外界からの感覚情報による神経活動依存的な制御のメカニズムを明らかにし、遺伝子レベルでの制御が行動に結び付くまでの一連の流れを統合的にとらえることを目指している。具体的には、(A) 神経シナプスの形成や機能を制御する細胞骨格を介した制御機構に関する研究、(B) 高次脳機能障害（認知症、うつ病などの精神神経疾患および放射線障害など）に関する研究、(C) 興奮性シナプス後部タンパク質を指標としたシナプスの状態のハイスループット解析系の構築と、ヒト iPS 細胞由来神経細胞を用いた安全性薬理試験を目指した系の開発、について分子生物学、生化学、細胞生物学、形態学、電気生理学および行動薬理学などの手法を用いて多角的に研究を展開している。

(3) 大学院への入学方法

研究意欲のある人を、理学部、工学部など幅広い分野から求めている。事前に受験希望の旨を研究室に連絡し、面談することが必要である。

(4) 現在所属の大学院生の実態：大学院生には個別に研究テーマが与えられる。現在の大学院生は、日々に熱心に自分のテーマに取り組んでいる。研究室全体で毎週ミーティングおよび論文抄読会を行っており、毎月行っている経過報告会では、各自の研究の進捗状況について報告し、これについて徹底的に討論を行っている。ティーチングアシスタントとして学内の教育業務補佐をすることで規定の手当が支給される。

(5) 大学院修了後の進路

製薬会社、臨床開発関連企業、大学院博士課程進学など。

(6) その他：詳細および連絡先は下記の研究室ホームページをご参照ください。

<http://neuro.dept.med.gunma-u.ac.jp/>